

平成 30 年度 第 1 回八尾市産業振興会議 議事概要

日 時	平成 30 年 7 月 24 日 (火) 10 時 00 分～12 時 00 分
場 所	八尾商工会議所会館 3 階 大ホール
出席者	<p><委員> 忽那座長、滝本副座長、阿部委員、居相委員、梶谷委員、樫本委員、梶本委員、佐藤委員、田口委員、浜田委員、水野委員、美馬委員、三宅委員、山田委員、山本委員 計 15 名</p> <p><事務局> 植島部長、平尾次長兼室長、西野課長、津田参事、永家課長補佐、後藤課長補佐、倉橋係長、藤原係長、松尾係長、浦崎、吉田 計 11 名</p> <p><オブザーバー>八尾商工会議所 川野氏 総計 27 名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

事務局より、本日の会議は全委員 19 名のうち 4 名が欠席で 15 名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第 3 条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることが報告された。配布資料を事務局より確認。

2. 委嘱状交付

委員に副市長から委嘱状を交付。

3. 副市長あいさつ

4. 委員紹介及び事務局紹介

全 19 名の委員のうち、当日出席した委員 15 名の自己紹介。ならびに事務局の紹介。

5. 座長選任、副座長指名

八尾市産業振興会議規則第 2 条に基づき、事務局から提案があった忽那委員を座長として選任するとともに、座長の忽那委員より滝本委員を副座長に指名。両委員よりあいさつ。

6. 議 事

－忽那座長による議事進行－

(1) 各委員による自己紹介

座 長：まずは各委員の方から「産業振興会議への期待」「自分自身の活動や専門分野からこんな風に貢献したいと感じていること」について、ご発言をお願いしたい。

委 員：自分自身の職場においても人材不足が課題となっており、募集をしても人が集まらない。自分も子育て世代であるので、子育てしている親が働きやすい八尾市にしていけたらと思う。この会議においても、人材に困っている企業の課題解決ができるような提言ができればいいと思う。

委 員：製造業を行っているが、人を集めるのに非常に苦労している。町工場なので働く環境が課題で、暑くてやめる、という人もいる。環境の改善ももちろんだが、それだけではなくものづくりに携わることを魅力的に感じ、自分がやっていることが地域に、日本に、そして世界に繋がっている、というような、会社を通じて社会貢献していると実感してもらえるような形にしてい

たい。

- 委員：人材不足が課題であると考えている。大手 SNS の会社が外国人の技術者を集めるために「京都」のブランドイメージを利用して京都にサテライトオフィスを開設した例や、徳島県神山町が自然環境を活かして IT 環境のサテライトオフィスを 10 社ほど集めた例があるように、まちのイメージが非常に大事であると思う。八尾は自然が多く残っているところも魅力のひとつなので、「花と緑とものづくりのまち八尾」といったような、既存資源での八尾のイメージアップができないか検討できればと思う。
- 委員：消費問題研究会として、環境問題や振込詐欺等行政とタイアップして活動している中で、若い人がなかなか入ってこない、人が集まらないというところがあるので、それぞれの原因を考えながら、消費者目線で意見を出していけたらと思う。消費者にとって結びつきの強い商業の目線から自分の住んでいるまちの様子等を伝えていけたらと思う。特に高齢化が進んでいるので、商店街のシャッター通りの活性化など、新しい形を提案していけるものがあればと思う。
- 委員：事務代行や経理・秘書などバックオフィス経営を行っており、自身も子育て中であるので、そういった方の働きやすい環境を作る支援ができればと思っている。以前は創業支援に関する仕事をしていたので、もっと八尾市で創業したいと思ってもらえるような取り組みを提言や、アクションに繋がられるようなそんな 2 年間にしていきたい。
- 委員：八尾市の 10 年後を考えたときに、行きたくなるまちづくりと住み続けたくなるまちづくりの 2 点が、活性化に必要であると思う。2 点に共通して必要と言えることが、正しい経済循環であり、まずは会社を通して雇用を増やし納税を増やすことが必須だと考えている。また自社だけでなく連携することによって切磋琢磨し、子どもたちや未来の子どもたちに向けて、働くということの楽しさや夢・希望を伝えるためにできることを提案していけたらと思う。
- 委員：八尾市と当金庫では連携協定を結んでおり、中小企業振興のための支援に力を入れている。補助金等申請支援や海外進出の相談等も受けている。今年度は大阪府の紹介により職業訓練校との業務提携を結んで、人材マッチングも行っている。信用金庫として地域密着で取り組んでいるので、中小企業との共存共栄をめざして、そういった支援にウェイトを置いて取り組んでいきたい。
- 委員：創業から 7 年の会社なので、創業する人へのアドバイスができるのではないかなと思う。八尾市のインキュベーションルームに入ってから、いろんな会合に参加させてもらっているので、マッチングや情報発信に繋げることができるのではないかなと思う。またそれだけでは終わらず、自発的にもアクションを起こしていけたらと思う。
- 委員：老人介護が主な業務だが、人口に対する母数の多くなる高齢者に対するアプローチをしていきたいと思う。「寂しくベッドで亡くならない社会」をめざして、高齢者がいきいきと活動できる社会をめざしたい。高齢者が孤立する状況がどこの市町村でも加速しているので、高齢者が元気になる仕組みを提供していきたい。
- 委員：住まいの専門であるため、増える空き家の活用方法を民間だけでなく行政とも協働して検討していきたい。また子どもに商売を教えるジュニアエコノミーカレッジや八尾のブランディングに関する事業を商工会議所青年部として行っている。八尾で働きたい住みたい、ブランディングをしっかりとすることによって八尾に入ってくる人を増やしていきたい。会社でも八尾に住むことを奨励しているが、外から見ると誤解されているところも多々ある。そういったところもしっかり発信していければと思う。
- 委員：これから 10 年先を考えると子どもたちに八尾のものづくりをしっかりと考えていく必要がある。みせるばやおのオープンについてもまだ知らない人が多いので、通知の仕方や情報発信につい

てが課題であるように思う。

委員：人材不足の意見が多いが、大阪府においても労働力の減少を危惧しており人材をいかに確保するかが課題だと認識している。直接実施しているものとしては若者の商業意識の転換・職業意識を広げられるような就職サポートを行っている。府下の地元の方に接触する機会が少ないので、みせるばやおのような施設に期待している。また障がい者、女性、シニアの活躍支援も検討しており、企業内保育所等、働く環境の整備についても取り組んでいる。大阪府だけでなく、民間のノウハウの活用や共有を行うことで底上げをうまく図っていければと思う。

委員：八尾の方は本当に八尾を愛されており、この八尾市産業振興会議のように様々な立場の人間が自由に意見を出し合っている会議は非常に貴重であると思う。人材不足が課題として多く取り上げられているが、その中でも若者や子育て世代の働く環境整備が重要であると感じる。またみせるばやおには非常に期待しており、子どもたちの自由研究やものづくりの魅力を伝える場として発展していけばと思う。

座長：本日は、第1回目の会議であるため、「10年後の八尾市の産業について（未来予想図）」について議論していくうえで、国・府・市の施策の方向性について理解を深める場としていきたいと思う。まず、「産業振興会議のしくみと本年度の進め方」について事務局から説明願いたい。

(2) 産業振興会議の仕組みと本年度の進め方について

事務局より、資料1～5に沿って、八尾市の産業振興、市の施策展開方針、八尾市総合戦略、平成30・31年度の産業振興会議について説明。

(3) 国の産業振興の方向性について

委員より説明。

(4) 大阪府の産業政策や施策について

委員より説明。

(5) 八尾市の産業振興に向けた課題と取組みについて

事務局より資料6-1、6-2について説明。

—事務局による司会で次第に沿って進行—

7. その他報告事項

8. 八尾市長あいさつ

9. 閉会

以上